

博士課程教育リーディングプログラム 事後評価結果

機 関 名	名古屋大学	整理番号	S02
プログラム名称	「ウェルビーイング in アジア」実現のための女性リーダー育成プログラム		
プログラム責任者	高橋 雅英	プログラムコーディネーター	東村 博子

博士課程教育リーディングプログラム委員会における評価

<p>[総括評価]</p> <p>計画どおりの取組が行われ、成果が得られていることから、本事業の目的を達成できたと評価できる。</p>
<p>[コメント]</p> <p>リーダーを養成するための学位プログラム、体制等の構築については、博士課程教育推進機構が設立され、研究科の枠を超えて学位プログラムが構築されている点は十分評価できる。特に、6つのコア能力の設定や Cultural Intelligence (CQ) スケールを用いた評価の実施などの工夫がなされており、教育体制に大きなインパクトを与えている点は、今後の大学院教育への波及効果がある程度期待される。</p> <p>修了者の成長とキャリアパスの構築については、修了者のプログラムへの満足度が高く評価できる。修了者は、海外研修及びメンター制度やセミナーを通じ、多彩なロールモデルから自らの進路を学んでいる。この活動を通じ、1期生の多くがアカデミア以外の国際機関や企業に職を得ている状況が示されていることから、従来の博士課程修了者がアカデミアに偏り、職を求めている状況を本プログラムが大きく変化させた効果があり、その点は十分評価できる。</p> <p>事業の定着・発展については、UN Women が主催する HeForShe 事業により、女性活躍を推進する世界のトップ 10 大学に全国で唯一選出されていることから分かるように、本プログラムのコアコンセプトである「アジアのウェルビーイング」及び「女性のリーダーシップ」が、学内は言うまでもなく、国内外に認知され、波及効果がみられる点は高く評価できる。このコアコンセプトについては、名古屋大学の特徴的な取組として、学内の教育拠点等と連携しながら今後も継続して取り組んでいく確約ができたと理解しており、この点についても評価できる。また、学長のリーダーシップの下に、本プログラムの成果を継承発展させる方針が明確に示されており、今後の定着・発展が期待される。ただ、名古屋大学で作成された事後評価調書の中で評価に関わる数値に誤りが複数箇所見られた。外部評価等の基本数値である点に鑑み、監査機能の向上が望まれる。</p>

事後評価結果案に対する意見申立て及び対応

機 関 名	名古屋大学	整理番号	S02
プログラム名称	「ウェルビーイング in アジア」実現のための女性リーダー育成プログラム		
プログラム責任者	高橋 雅英	プログラムコーディネーター	東村 博子

意見申立て内容	意見申立てへの対応
<p>【申立て箇所】</p> <p>(総括評価)</p> <p>計画どおりの取組が行われ、成果が得られていることから、本事業の目的を達成できたと評価できる。</p> <p>【意見及び理由】</p> <p>[コメント]に記載いただいたように、本プログラムの成果として UN Women より「HeForShe を積極的に推進する世界の 10 大学」に国内で唯一選出されたことや、本プログラムのコアコンセプト「アジアのウェルビーイング」及び「女性のリーダーシップ」が、国内外にも認知され、波及効果がみられる点は高く評価できる。」と高く評価頂いた点については、「計画を超えた取組」であるため、「総括評価」の上方修正を是非ともお願いできますと幸いです。</p>	<p>【対応】</p> <p>原文のままとする。</p> <p>【理由】</p> <p>総括評価の記述は、各評価項目及び観点から総合的に判断し、採択プログラムの進捗状況等達成水準を 4 段階の定型句により記述しているため、全ての評価項目の達成状況等を網羅的に示すものではない。</p>
<p>【申立て箇所】</p> <p>(第三段落)</p> <p>ただ、名古屋大学で作成された事後評価調書の中で評価に関わる<u>数値に誤りが散見された</u>。</p> <p>【意見及び理由】</p> <p>事後評価調書の中で評価に関わる数値に誤りがあった点は大いに反省すべき点と考えますが、記載文章を「ただ、名古屋大学で作成された事後評価調書の中で評価に関わる<u>数値の一部に誤りがあった</u>。」との修正をお願い出来ますと幸いです。確認された誤りは 2 カ所、すなわち生命農学研究科の入学者数の一部を実際よりも少なく表記していた点（事後評価書 p10）、および支援期間終了後のプログラム担当者の欄で特任教員 3 名／年は誤りで、正しく</p>	<p>【対応】</p> <p>以下のとおり修正する。</p> <p>ただ、名古屋大学で作成された事後評価調書の中で評価に関わる数値に誤りが<u>複数箇所見られた</u>。</p> <p>【理由】</p> <p>より正確を期するため、上記のとおり文言を修正する。</p>

は承継教員化した元特任5名であること（事後評価書 p37）の2点であり、ヒアリングでご説明した通りです。これらの誤りについては、「散見」というよりも、「一部」と考え、「数値の一部に誤りがあった。」との表記への修正をお願いできますと幸いです。